



YURAKUCHO ART SIGHT PROJECT Vol. 05

実施場所	有楽町ビル・新有楽町ビル (東京都千代田区有楽町1丁目10-1 及び 12-1)
アーティスト	小林 菜奈子、小山 泰介、築山 礁太、 松井 祐生(関川 卓哉)、三野 新、村田 啓
ディレクター	小山 泰介 (TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH)
主催	三菱地所株式会社
掲載期間	2025年7月～2026年度下期(予定)

有楽町エリアの魅力を発信する「YURAKUCHO ART SIGHT PROJECT」の第5弾。TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCHのディレクター・小山 泰介氏をはじめとする6名のアーティストによって、有楽町ビル・新有楽町ビルの解体工事現場で実施された仮囲いアートです。

街の人びとの間に豊かな交流をもたらすことを目的に掲出された作品に、小山氏は「このエリアで撮影された風景や、現在解体中のビルが竣工された当時の写真を作品に込めることで、普段、通り過ぎる風景の中からもアートが生み出されることを感じてほしい」と語りました。

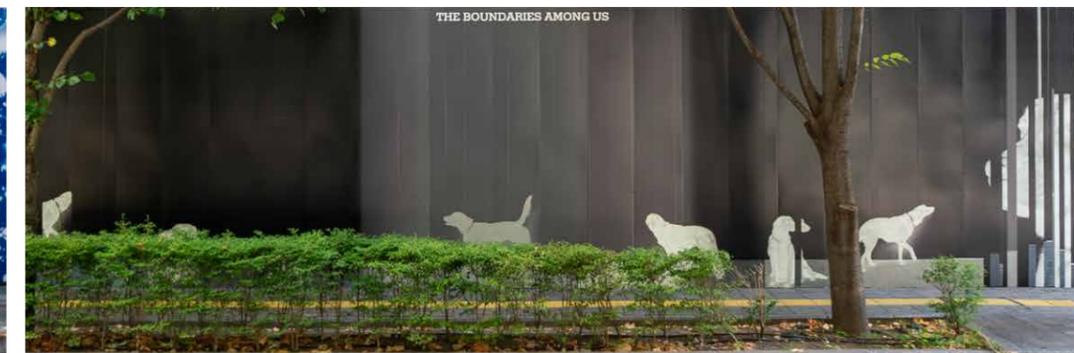
Interview

このプロジェクトは、有楽町の二つのビルを解体し、YURAKUCHO PARK が新たに開業するまでの準備期間に、来街者に街の進化や芸術性を体感し、楽しんでもらう仕掛けを提供すること、及び未来のまちづくりにつなげる狙いで企画しました。2020年から継続的に有楽町エリアでアートと都市の共存に取り組んできたプロジェクトの一環で、有楽町に思い入れのあるアーティストと協業することで、街の魅力を体現することができたのではないかと感じています。

三菱地所株式会社 丸の内運営事業部 安見 茜音氏



Business Interviews





～ Shibuya Culture Jungle ～ 多様性を輝かせる

実施場所	渋谷スクランブルスクエア西棟 (東京都渋谷区渋谷二丁目 23 番 外)
アーティスト	太田 宏介
主催	東急株式会社
協力	一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント
掲載期間	2025年8月～2026年2月

渋谷駅西口の仮囲いに掲示された色鮮やかなコウモリや草木は、自閉スペクトラム症ならではの感性を持つ太田 宏介氏が創作した15点の作品群。渋谷スクランブルスクエア西棟の50m 続く仮囲いをダイナミックに彩っています。

太田氏の作品を通して、多様な価値観や背景を持つ人々が互いに認め合い、活躍できる社会の実現をメッセージとして伝える意図があります。

また、10年以上にわたって続く工事によるネガティブな印象を和らげつつ、仮囲いアートを通して、様変わりする渋谷駅前の再開発への期待感を醸成したいという思いが込められています。

Interview

東急グループが掲げる「個性を尊重し、人を活かす。」という経営理念のもと、渋谷区が大切にする「ダイバーシティとインクルージョン」という考え方とも連携し、「多様性を輝かせる」をコンセプトにしました。多様な人が行き交い、様々な文化が息づく渋谷の特性を、「カルチャージャングル」と表現し、太田氏による鮮やかな色彩で描かれた草木やコウモリから、我々が考える「渋谷らしさ」を伝えたいです。渋谷の街にはアートが点在しているため「渋谷＝アート」の大きな流れを作るきっかけになればと思います。

東急株式会社 塩澤 寅樹氏 / 一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント 桂 麟太郎氏





108 八重洲さくら通りプロジェクト

WOK22

実施場所 八重洲さくら通り及び外堀通り沿い
(東京都中央区八重洲一丁目6番地)

アーティスト 水戸部 七絵、WOK22

主催 108 ART PROJECT

掲載期間 2024年9月～2025年7月(水戸部 七絵)、
2025年7月～2025年10月末(WOK22)

八重洲さくら通りの仮囲いを使ったアート作品やライブペイントを企画したのは、全国各地に工事現場アートを展開する108 ART PROJECT。「まちにART(にぎわい)を、ひとにART(豊かさ)を」をテーマに、地権者やアーティストだけでなく、地域住民や専門家など多様な人と連携しながら、賑わいのあるまちづくりを目指した活動を続けています。

無機質になりがちな工事空間をアートで彩ることで、作品との偶然の出会いが見る人の感情を揺さぶるきっかけになるだけでなく、工事現場で働く人の誇りや満足感にもつなげたいという思いがあります。

Interview

仮囲いによって、街が物理的にも時間的にも分断されてしまうことに課題を感じていました。これからのまちづくりは、数字や計画といった"ロジカル"の積み重ねだけでなく、人の感情を揺さぶる"体験"が重要だと考えます。仮囲いアートは、思いがけない場所で「綺麗だな」「かわいいな」といった感情の揺らぎや、「これは、なんだろうな?」「もしかしたら、こういうことを表現しているのかな」といった考えるきっかけを提供してくれます。発想や気づきを与える場所として仮囲いを活用していくことに、大きな意義があると感じています。

108 ART PROJECT 事務局 ディレクター 木下 雅幸氏



Business Interviews



NANAE MITOBE



WOK22